1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2020 年 8 月 23 日発行　SSKU　増刊通巻第 6818 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL:03-3598-3337

シャケ Zo くん

SSKU わくわくかん リボン便り

http://www.wakuwakukan.net/

2020 年 9 月号 No.234

？？なぜリボン？？

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

＜コロナ第２波＞の不安をはね返す

東京は「コロナ第２波か！」という緊張感の中に日々あります。そんな不安の中で自立訓練の場である響の全員参加のリボン便りの「記事作り」は毎号、楽しみにしています。プログラム報告から社会見学、カット・習字・川柳に至る多様な表現はどのようにして創りだされているのか、スタッフのＦさんに報告してもらいました。

響のリボン便り「記事作り」

メンバー同士で意見出し合って

響では月に一度、リボン便りの記事作りのプログラムがあります。そのプログラム内でリボン便りの響の紙面の文章やイラストを書いています。書く記事の内容もメンバーさん同士で意見を出し合い決めています。当事者メンバーがそれぞれ書きたい記事、響のプログラム紹介、その月にあったイベント、季節の出来事、趣味や特技について、病気のこと、お題はそれぞれです。たくさん挙げたお題の中からその月に書く記事を３～４個に絞ります。記事によっては１人で記事を書いていただいたり、２人で協力しながら文章を考えていただいたり、それぞれ書いていただいた文章をくっつけて１つの記事にしたりと作成方法も工夫しています。

先輩 O さんの「マスク女性」をとりまく響のカット群像（4 月号）

イラストも描きたいもの、好きなキャラクター、その月に発行される季節に合わせたイラストなどいろいろなものを描いています。

記事の作成にあたっては、文章をすらすら書く方、じっくりと考えて書く方、雑談をしながらあんなことあったよね、こんなことしたよねと思い出しながら書く方、写真や記録や資料を読み返して書く方、漢字を調べながら丁寧に書く方、筆が走る方、筆がなかなか乗らない方、いろいろな方がいますがみなさん一生懸命に記事を書いてくださり、すてきな記事がたくさんあります。最近の記事では、イニシャルでなくペンネームで作成していてその人らしさがある記事になっています。

コロナの影響で、在宅支援中は、記事を書いていただく機会がなく、来所時に一言書いていただいたり、OB や OG の方にも記事やカットを作成していただきました。徐々にプログラムが再開となり、プロラムのことや、響での記事が書けるようになり、うれしく思います。

思っていることや、感じたこと、楽しかったこと、悲しかったこと、自分が経験したことを文章にして書くことはとてもいいことだと思います。書いてみることでわかること、気付きもたくさんあります。これからも大切にしたいプログラムの一つです。　（A.F）

✧　8 月 28 日（金）　「りぼん便り」編集会議　13:00～
✧　9 月 08 日（火）　理事会　15:00～　赤羽会館
✧　9 月 12 日（土）　ブルースカイ 15：00～　はたらっくす 16：00～（自立訓練室）
✧　9 月 19 日（土）　共同連全国セミナー　13:00～「労協法成立後への期待」ソーネおおそね
✧　9 月 29 日（火）　現場協議会　16:30～　（自立訓練室）

＜わくわくかん　9 月予定表＞

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2020 年 8 月 23 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6801 号

わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

コロナ第 2 波の不安に酷暑が重なる

大黒柱の職員不在で応援に感謝

新型コロナ感染の影響もある中で、配食サービスは大変な運営状況でやっています。でも、いつも何とかなってきたという根拠のない自信は、気持ちを前向きにさせると思いつつ報告します。

いつ終わるとも先が見えないことに、じわじわとストレスがたまるのは、誰でも同じかと思います。そこにきて、この暑さが加わりマスクをしながらの出勤、退勤も息苦しも感じることも多いかと思います。

そんな環境の中、色々な理由で職員が不在になっています。常勤職員一名体制になりほぼ一月が経とうとしています。

当事者スタッフと非常勤スタッフの働きに助けられ何とか運営を継続しています。リボーンからの応援もありがたいです。

調理部門も人手不足で大変です。何とかしのいでいただいています。

色々重なり、先が見えない状況が続いていますが、これからは逆に良いことが続きそうな気がしています。

次回は、良い報告ができると良いと思いつつ。今月は、独り言の様な記事になりました。(笑)

＜配食サービス＞のお弁当

リボーンプロジェクトに通っていて、みんなが頼んでいるのを見てどういうお弁当なのか気になって頼んでみました。何年か前は女子高校生だったので、お弁当があり栄養が取れていましたが最近はコンビニのおにぎりでした。そして思ったことは必ずお肉や魚が入っていてたんぱく質がとれて魅力的だと思いました。野菜も 1 種類だけではなくて何種類も入っていて普段取れなかった栄養もたくさんとれるようになりました。これからもまた頼んでいきたいです。いつもおいしいお弁当ありがとうございます！　(H.I)

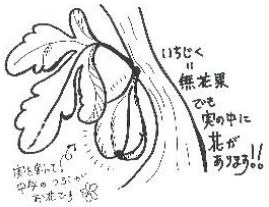
ここ響で食べているお弁当はとても安く量も適量でとにかくおいしいです!!　ご飯は冷めてもおいしい、たぶん国内米でおかずも肉・魚・野菜とバランスが良い。お肉はそれだけでなく、必ず何かの盛り合わせがあり、魚もあんかけになっていたりと毎日楽しみです。

私も一時、調理場に入ったことがありますが、仕込みもしっかり丁寧にしていて、そのような事を知らない方々に伝えたいくらいです。そのほか栄養のバランスもとれていて私は重宝していますよ。　(T.H)

「いちじく」を使って

最近は大きなサイズがスーパーに出回っているいちじく。みなさんはお好きでしょうか。都会では結構お高い食材ですね。このいちじく、不老不死の果物と呼ばれるくらい栄養豊富です。ペクチン、カリウム、カルシウム。しかも鉄分も豊富。便秘気味で貧血気味の方は積極的に食べてほしい食材です。夏の終わりから秋に出回るので夏の疲れをとり季節の変わり目の体調を整えるにも大活躍してくれます。

いちじくのコンポートはいかが？



いちじくは生のままでも食べられますが、甘くってとろりとした食感のコンポートをご紹介します。生のイチジクをたべるとお口の周りがかゆくなってしまうかたにもお勧めです。

用意するものはいちじく 5 個くらいに対し、水 300ml、お砂糖 40g、レモン汁少々のみ。よく洗ったイチジクの皮をむいておきます、鍋に水、お砂糖をいれていちじくをいれ、落し蓋をして弱火で 20 分ほど煮込みましょう。火を止めレモン汁を少々。粗熱をとってから冷蔵庫へ。簡単これだけで出来上がりです。

1998 年 10 月 9 日　第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2020 年 8 月 23 日発行　SSKU　増刊通巻第 6818 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

散歩～十条銀座

7 月 15 日、十条銀座へひびきのメンバーで散歩に行きました。私自身色々な商店街を見てきましたが、十条銀座は群を抜く店数でした。着いてすこし歩いてから自由行動になり、私は以前から気になってしかたなかった「とりだい」のやきとりを、ぜんぶ塩で何本か食べました。うわさどおりとてもおいしかったです。そしてその場を離れ歩いているとＴさんと会い、今度はたこ焼きをごちそうしてもらいました。たこ焼きもおいしかったです。とにかく繰り返すようですが、あれだけの商店街がいまだに東京都内にある事は、とても誇りに思います。また、あのような商店街がふえてほしいと思います。

（イケメンチャライダー）

おやつづくり

木曜日のプログラムでおやつ作りをしています。今回はバナナケーキ作りをしました。バナナを輪切りにして、フォークで潰して生地に混ぜる。香りもよく、味もまろやかでした。作りやすいのでおすすめです。生クリームとの相性も良いですね。　（D・T）

プログラム　ハーバリウム①

プログラムでハーバリウム作りを体験しました。もともと興味があり、挑戦してみたかったので、良いきっかけになり良かったです。私は夏をイメージして作っていたのですが、皆さんのを見ると、とてもキレイで、個性的なものもありました。見ているだけでとても楽しかったので参加できて良かったと感じます。　（よもぎ）

プログラム　ハーバリウム②

7/21（火）空きビンにビーズを入れ、ドライフラワー、折り紙等を入れてオイルを入れました。細かい作業の中、完成させられて満足しました。家に持って帰って飾ってあります。　（かずはいずるぜん）

Ｂ型事業所の体験

今Ｂ型のティーリーフに体験に行っている。一度見学に行っていて、仕事は何をするかは理解していたつもりだった。そう。見学の時から体験するまで「自分は出来るか心配ない」とたかをくくっていたのだ。もっと簡単に言うと「出来ない事はない」とちょっと、いやかなりなめていたのだ。でも始めて正直に言うとムズかしくて大変だった。私のいけない所は「私には出来ない事はない」と思い込んでいる所だ。ある時はそれでもいいが初めてやる事はそう思ってやるのはよくないと気づいた、そんな初めての体験だった。　（ぶーたん）

川柳

太宰読む　心は闇に　とらわれる
夢を見る　明るく日々を　見て出陣
梅雨明け　頭痛とムシムシ　いやな季節
秋の空　さつまいもを焼く　日が来る

「体をうごかす会」～ボッチャ

「体を動かすかい」の時間で、別館の第一ホールにてボッチャをしました。4 人 1 チームで、3 ゲームくらいしました。第一ホールは、とても広くて誰も使っていないのが不思議でプレーできてよかったです。ボールの距離感をつかむのが難しく、みんな苦戦していました。4 人 1 チームで 6 球を投げるので、1 人 1 球投げる人もいれば 2 球投げる人もいました。　（つんた）

響の作品展

1998年10月9日第三種郵便物認可　　(毎月3回8の日発行)
2020年8月23日発行　　SSKU　増刊巻第6818号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

〒114-0032　東京都北区中十条1－2－18
北区障害者福祉センター4F　Tel：03-5963-6888

教育委員会から今年も受託業務

今年も7月より教育委員会から受託事業をリボーンで受けることができました。
私は、初めてこの業務を行いました。アンケートと感想を入力する作業です。
小学生の子ども達が一生懸命アンケートに答え、妖怪を退治するといった、ユニークなできの冊子になっています。
子ども達は「妖怪退治」をするために、早寝、早起きや朝ごはんをしっかりとるなどの努力をされています。私たちはそのアンケートの「アイウエオカ」を数字化して入力しています。感想は子ども達が一生懸命手書きしたものを入力致します（親御さんの感想も入力します）。

感想を入力するとお子さん達が、多くの子が「楽しかった」という言葉が入っています。親御さんたちは「生活リズム」という言葉が書かれていることが多いです。この冊子の取組みは今のコロナ時代にはとても良い励ましになっていると思います。
あと私は、前の職場でも、アンケートの入力をやったことがあるので、次に就労した際にとても役に立つのではないかと考えています。
（S.S）

7/14<社内研修>

「夏の熱中症・臭い対策」

夏の熱中症・臭い対策についての研修を行いました。
その際に「みんなは熱中症に対してどのような事をしている?」というような議題が行われましたが、研修に参加したメンバーが色々と用例を出していくうちにこの話題で大きく盛り上がってしまい、結果的にそれだけで研修の時間が潰れる事態になってしまいました。
熱中症対策の方があまりにも盛り上がりすぎてしまったせいか、その後に行われた夏の臭い対策の方は、夏の熱中症対策が前述のとおりあまりにも盛り上がり過ぎたことや時間が押していた関係で講義自体が手短に済ませられた事からあっさりとした内容になってしまい、結果的に熱中症対策ほど印象に残る物にはなりませんでした…　（Y.A）

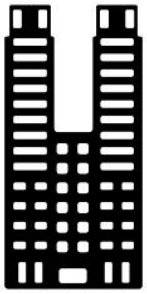
久々の善意銀行の貼紙

約4か月ぶりの善意銀行の貼紙を作成しました。
リボーンプロジェクトでは、東京善意銀行からの招待寄付のご案内を貼紙（ポスター）にする業務があります。
今回、作成したのは『東京ヴェルディ』と言うサッカーチームの試合の案内でした。
会場・相手チーム・試合時間などをパソコンで打ち、イラスト検索をして貼り付けました。
イラストを貼る位置のバランスを考えたり、ワードアートを考えるのが楽しかったです。
また、東京ヴェルディのイメージカラーが緑なので、緑色の背景をつける事を工夫しました。（Y.I）

はまっているゲームについて

最近はコロナの影響もあってあまり外出せず、ゲームにはまっています。あつまれどうぶつの森というゲームです。このゲームはリアルタイムで時間が動いています。今は夏真っ盛りでセミも鳴いています。洋服ショップがあるので洋服を選んで買ったり、雑貨屋さんがあるので、家具や壁紙を買ったりしています。そのほかにも虫を捕まえたり、魚を捕まえたり、いろんなことができます。のんびりスローライフができるゲームです。はじめてはまったどうぶつの森がとびだせどうぶつの森です。家具や洋服の数が多く、とてもかわいいので、はまっていました。それから最近発売されたあつまれどうぶつの森にみごとにまた、はまっています。
今回はバッグが装備できるようになり、さらにかわいくなりました。また毎月のようにデータが更新されるようになりました。今月は花火大会に参加できるようになりました。まだ参加していないので、ぜひ参加して夏を満喫したいです。そして今回の舞台は村から島になりました。どんな島にするかは自分次第で、例えば和風の島にできたりします。まだ私は島をどんな風にするか決めかねており、これから作るのが楽しみです。自粛ムードの中ゲームを楽しみたいと思います。　（H.I）

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2020 年 8 月 23 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6818 号



都の「ソーシャルファーム条例」の動き

「東京都ソーシャルファームの認証及び支援に関する指針」（案）への意見公募には 72 件が寄せられ、それを踏まえ「東京都ソーシャルファームの認証及び支援に関する指針」が策定されました。8 月 3 日、都庁談話室でワーカーズ・コレクティブを中心にヒアリングが行われましたが、この動きについてまとめてみました。

2016 年に小池百合子都知事が初当選した際に、公約の一つとして「ソーシャルファームの推進」が掲げられていました。実際に実現されるのか、それほど期待をせずに半信半疑で見ていた方も多いと思うのですが、昨年から今年にかけて、急速に動きが見られるようになりました。

障がい者や刑余者、長期失業者、移民など就労に困難を抱える人々を積極的に雇用

障がい者や刑余者、長期失業者、移民など、就労に困難を抱える人々を積極的に雇用し、社会に包摂しようとする企業は、社会的企業（ソーシャルファーム）と呼ばれます。それらの企業に対し支援を行うことで、社会的企業の動きを促進し、就労に困難を抱える人々の働く場を増やしていこうとする制度は、ヨーロッパでは一般的であり、東アジアでも韓国などでは、大変大きな成果を収めています。一方、日本では障がい者分野を除いて、そのような制度はほとんど見られません。わくわくかんも加入している共同連では、ワーカーズ・コープやワーカーズ・コレクティブなど他の団体とも連携して、社会的企業を育成する法案「社会的事業所促進法」を、長年提案してきました。

残念ながら、国のレベルではこの間動きは全く見られなかったのですが、東京都では昨年 12 月に、様々な要因から就労に困難を抱える人々が働く新たな場として、「ソーシャルファーム」の創設を促進する「ソーシャルファーム条例」が制定されました。さらに、この条例を具体化する「ソーシャルファームの認証等に関する指針」が、パブリックコメントの受付を経て、今年６月に制定されました。東京都では９億円の予算を今後５年間にわたる支援の費用として計上しており、今年度中にソーシャルファームの第一弾の認証を完了させる計画を立てています。

条例・指針において、ソーシャルファームは、①事業からの収入を主たる財源として運営していること、②就労に困難を抱える方を相当数（従業員の 20%・3 名以上）雇用していること、③職場において、就労に困難を抱える方が他の従業員と共に働いていること、の条件を満たす社会的企業と規定されています。指針では、どのような人々が「就労に困難を抱える」と見なされるのか、などの基準が不明瞭で、審査委員会の裁量に判断が大きく任されています。また、審査委員会のメンバーは非公開であり、審査理由も公開されない等の点も、大きな問題です。

上記のような問題点を抱えていますが、東京都という日本の首都で社会的企業を本格的に育成・促進していこうという動きが始まったことは、本当に大きな一歩であり、今後が非常に期待されます。東京都の動きは、想定以上に速いものであり、今後の展開を注視し素早く対応していくことが、わくわくかんとしても必要でしょう。

――――――――「はたらっくす」に参加して――――――――

私が今の会社へ障害者枠で入ってから一年と 7 か月に入る。内定の日の夜に飼い猫が天国へと旅立ち、週 3 日のペースになるまで、休職もしたし、労災ももらい、精神力を使い切りました。だから周囲の方々に支えてもらいながら乗り越えてきました。

私はアレルギーがあるので北区内の作業所をあきらめ、区外の作業所に 7 年間通った。結果としてはどの作業所でも起こりうることが起きたと思う。

ただずっと働きたいと願っていたが、現在は働くことが全てとは思えなくなった気がする。1 日で作業所一週間分のストレスを受けることもあれば同じような仲間がいないストレスもある。しかし、実戦本番を経験させてもらえることに例えようのない喜びがある。がんばりたい。　（H.K）

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2020 年 8 月 23 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6818 号

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2020 年 8 月 23 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6818 号

9/19 共同連全国セミナー
「労協法をいかに活用できるか」

共同連全国セミナーが 9 月 19 日、「労働者協同組合法成立へ　社会的協同組合法への展望」をテーマに名古屋＋オンライン参加で開かれます。

新型コロナ感染が止まらない中にあって、現地参加は近隣にとどめ、全国とはウェブ会議・YOU TUBE 中継で結びます。シンポジウムで共同連は「労協法をいかに活用できるか」に挑みます。

第 1 部はWNJ代表・藤井恵理さん、ワーカーズコープ専務理事・田嶋康利さん、あいち高齢協専務理事・藤井克子さん、共同連代表・斎藤縣三さんの間で議論されます。

第 2 部の講演Ⅰでは「社会的協同組合への展望」がイタリアの事例をもとに田中夏子さんが、講演Ⅱでは、格差広がる中での「居住支援活動の現状」がソーネ居住支援センターの羽田明史・西尾弘之さんからリアルに報告されることになっています。

「コロナ災害緊急アクション」が政府交渉
外国人と路上の人たちの給付で迫る

（写真は窮状を訴える外国人）

８月１９日、三回目の「コロナ災害緊急アクション」の院内集会と政府交渉が衆議院大会議室で開かれた。瀬戸大作（新型コロナ災害緊急アクション事務局）が「反貧困緊急ささえあい基金が９千万円近く寄せられ、所持金がなくＳＯＳを発する20～40代の人たち94 人に生活保護申請の助言、また生活困窮する外国人 543 人に合わせて２千万円を支出してきた実態報告があった。

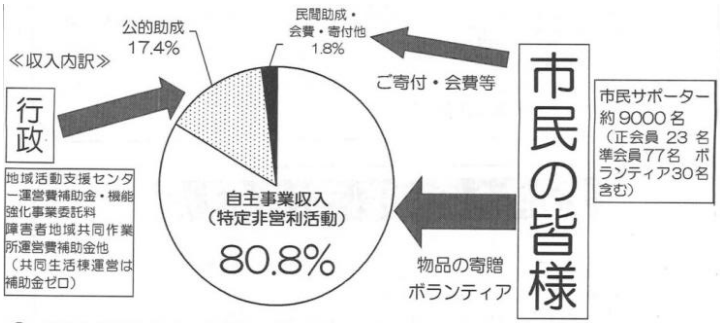
報告会と政府交渉は、一人 10 万円の特別給付金が、「日本に住んでいるすべての人へ」とされているにもかかわらず、最も困窮している外国人と住むところを失った路上の人たちに届いていないことに対して、その窮状とその給付や延期を迫る緊迫したやりとりが行われた。

中でも第一部のクルドを知る会の人たちの「支援現場から見えた、外国人への公的支援の必要性」の話やベトナム人の当事者の話は、働く場が奪われ、医療が受けられず、特別給付金が受けられない惨状が切々と訴えられた。

政府交渉は、①支援を受けられない外国人の公的支援を求める、②困窮者支援に対する住まいの公的支援を求める、③ホームレスの方への給付金支給と申請期限延長、感染対策を求める内容で行われたが、政府答弁は、給付金支給は住民基本台帳にあるものとし、その理由として二重払いの危険性を理由にするもので会場から新型コロナ被害救出の法の精神に立って工夫すべきとの声が飛んだ。８月内に再度詰めることで合意した。

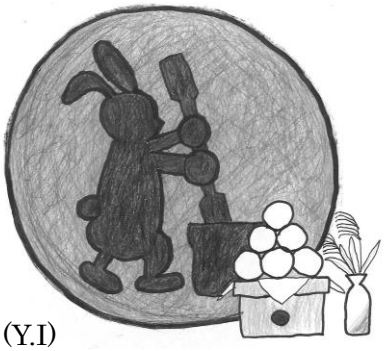
徳島のＮＰＯ法人太陽と緑の会
自主事業収入はなんと 80.8%！！

機関紙交換で送られてくる四国・徳島のＮＰＯ法人太陽と緑の会の「かわら版」189 号を見てうなった。コロナ災害で、今、障がい者事業の継続が改めて問われているが、太陽と緑の会の公的助成は 17.4%であり、自主事業収入（特定非営利活動）は 80.8%と報告している。作業所への公的資金は年間 940 万円だが、太陽と緑の活動を一般的な障害者支援に換算すると約 5000 万円、ごみ処理 1900 万円、支援事業 100 万円、青少年育成・人権教育・社会教育活動 600 万円、合わせて 7600 万円の活動を行なっていると胸を張る。



そこには図にあるように。市民サポーター9000 名の厚い市民の支えで物品の寄贈がボランティア活動によって「人も物も活かされる街づくり」がされていることがわかる。

1998 年 10 月 9 日　　第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2020 年 8 月 23 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6818 号


(Y.I)

「津久井やまゆり園は誰のものか？」

「中間報告」受けて利用者支援を考える集会

事件から４年が経過した７月２６日、相模原市で「津久井やまゆり園は誰のものか？「検証委員会中間報告」を受けて利用者支援について改めて考える」という集会が開催された、主催は副理事長の堀さんも中心メンバーの一人である「津久井やまゆり園事件を考え続ける会」。

犯人の責任能力の有無に終始した裁判の判決が下された後は、事件の風化が急速に進んでいます。昨年１２月、黒岩神奈川県知事主導の元、やまゆり園における利用者支援において身体拘束などの虐待行為の告発を受ける形で検証委員会が設置され、紆余曲折の後、今年５月に中間報告が提出されましたが、その取扱いを巡っては、その後の方向性も含め迷走の感はいなめません。津久井やまゆり園で何が起きていたのか、或いは起きていなかったのか？そしてそれは、事件の犯行動機と関連しているのか？どうしたら真に利用者支援の未来を志向できるのか？

皆さんと一緒にこの「残された宿題」について考えてみたい・・・、というのが集会主旨でした。

集会の冒頭で神奈川県議会の厚生常任委員会で、自民党の二人の委員が、中間報告について「これは表に出すべきではない。３ 人の委員は偏っている」と誹謗しながら、県に迫っている画面が流された。次の石渡和実さん（東洋英和女学院大学教授、元やまゆり園事件検証委員会座長）の報告で、客観的に、この３人以上に検証に適任と思われる人はいないこと、調査における限界、今後、新たな検証委員会で入所施設での支援をさらにきっちり検証しなければならないことなどが語られた。この中間報告をめぐる県の対応の混乱については、毎日新聞で上東記者が詳しく報じており、この報道もあって軌道修正されたように見える。

また、ビデオで録画された元毎日新聞論説委員の野沢さんの話は調査にあたった当事者としての話。実は、この話は１時間に及んだ話を編集したもので、撮影に立ち会った人によると、この日オンエアされなかった部分でも面白い部分はあった、とのこと。

さらにお子さんが津久井やまゆり園で生活していた平野さん、そしてもう一人の方から、津久井やまゆり園の日常について語られた。平野さんからは日中の支援が週に数回しか行われていないと思われるような現状が語られた。また、もう一人の方は録画での参加だったのですが、利用中の怪我の話などもあった。

ちなみに、この集会にも参加されていた福原麻希さんがダイヤモンドオンラインで「津久井やまゆり園」 事件から４年 、再生に向けた現在の取り組みとはという記事を書かれていて、津久井やまゆり園の入倉園長の以下のコメントが掲載されていた。「入所施設の日中活動にはいろいろな考え方があり、職員を多く配置して活動に取り組ませる施設と、うちのような寮内の生活リズムを整えることを支援の中心に置いている施設があります」入倉園長はこのように書くのだが、これは日中支援がほとんど行われていない現状への言い訳になっていない。生活リズムのためにも日中、しっかり活動をすることが必要なはず。

事件から４年、ともすれば報道は植松死刑囚の特異性に目を奪われがちだが、ここで明らかになってきた入所施設のあり方自体がさらに問い続けられなければならないと感じた。

（NPO わくわくかん監事 鶴田雅英）

梅 雨

しとしととぽつぽつと落ちる雨は嫌じゃなかったのに、今年の梅雨は何故か大嫌いになってしまった。

そもそも７月まで雨って何？！って感じだ。お陰様で頭痛のヒドイこと。毎日ズキズキ、ゴンゴンと私の脳がわめいてる。梅雨なんてマジでなくなって欲しい。のだが残念な事にこの世界には「梅雨も」必要なのだ。嫌いだけど共存していかなければならない。

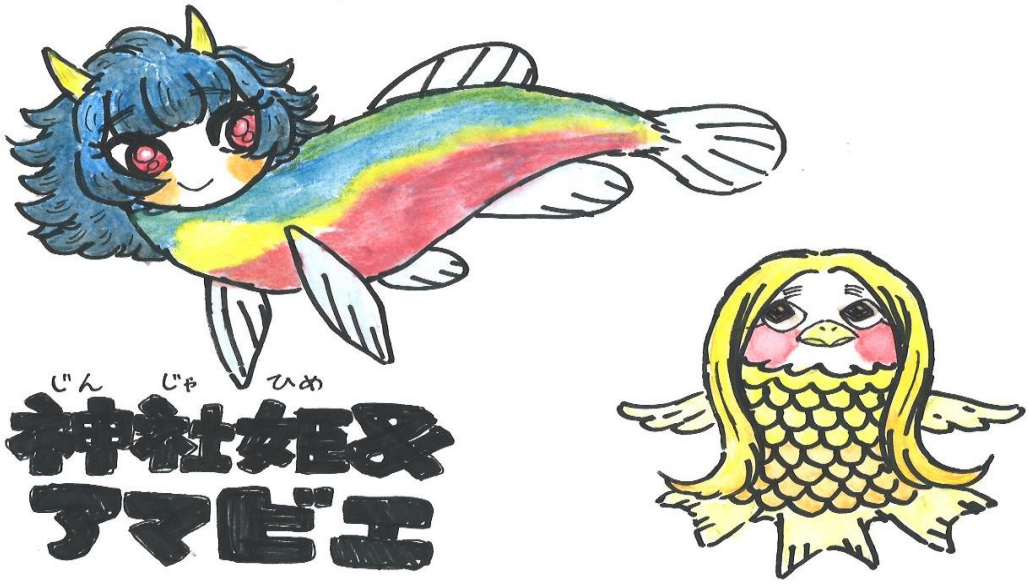
うでがにちゃにちゃしようとも心がムシムシと締められようとも(笑)あと少しのガマン。でも梅雨が終わったら私の嫌いな夏がやってくる。

（響　ぶーたん）

1998 年 10 月 9 日　　第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2020 年 8 月 23 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 6818 号

1998 年 10 月 9 日 第三種郵便物認可 （毎月 3 回 8 の日発行）
2020 年 8 月 23 日発行 SSKU 増刊通巻第 6818 号

コロナ退散祈願！



神社姫もあまびえもアマビコも江戸期にあらわれた地域の妖怪 （リボーンプロジェクト E.Y）

就労支援センター北わくわくかん

登録者（2020 年７月末） 953 名
就職者 ６人（事務３・軽作業２・ビル管理 1）

先月 ご協力いただいた皆様

東京都労働局・東京都精神保健福祉民間団体協議会・北区障害福祉課・北区健康推進課・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ハローワーク王子、池袋、飯田橋、上野・東京障害者職業センター・東京しごと財団・東京都立精神保健福祉センター・東京都立王子特別支援学校・北区社会福祉協議会・北区教育委員会・和希君を支える会・津久井やまゆり園事件を考え続ける会・社会福祉法人月山福祉会・NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会・企業組合ワーカーズコレクティブキャリー・NPO 法人ゆめ風基金・あしたや共働企画・反貧困ネットワーク・特定非営利活動法人のらんど・ＮＰＯ法人ソーシャル・クリエイターズ・企業組合あうん・共働事業所よって屋・シャロームの家・NPO 法人太陽と緑の会・認定ＮＰＯ法人やまぼうし・エルコープ協同組合運動研究会・新型コロナ災害緊急アクション・社会評論社・だるま舎・地涌社等、お世話になりました。

グループホームわくわくかん

現在女性 3 名が入居中、1 部屋単身アパートタイプが空室です。この夏はコロナ渦第 2 波の不安と例年よりも暑さがきつくて大変です。グループホームの集会室（共同キッチン）にはクーラーが設置されていない為、集会室で面談がある時などは、他事業から扇風機をお借りしています。この暑いキッチンで毎日コンロを使って料理をしている入居者Ｉさんに「大丈夫？暑くて大変でしょう？」と聞いたら、Ｉ さんは「そんな事言ったってしょうがないでしょっ！」と怒られてしまいました。Ｉ さんの懸命に暑さを受入れ日々闘っている姿には、品位さえ感じました。どうか無理だけはなさらずに…。

▼編集後記▼

原発と地震（津波・火山）情報で、たんぽぽ舎が発行するメールマガジンは 8 月 5 日で 4000 号になった。2000 年４月に出発、それが 2011 年３月 11 日の東電福島第一原発の事故後から日刊の発信となり、今や全国１万人の読者と双方向で支えられて情報を発信している。その読みごたえある内容に読者から感謝と連帯のメッセージが寄せられている。3. 11 福島原発事故が中心で、被害者支援、全国の動きが連なっている。地震の分析は、はじめは故生越忠さん（地質学者）、のちに島村英紀さん（地球物理学者）の協力があってその情報力に信頼がある。「再稼働阻止全国ネットワーク」（事務局はたんぽぽ舎気付）は全国の反原発の現地をつなぎ、今は福島原発事故でたまった大量のトリチウム汚染水の海への放流に警戒感を高めている。

発行所 郵便番号 157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 100 円（会費に含む）